

2025年2月13日
日本銀行富山事務所
藤澤知行

「富山県金融経済クォーターリー（2025年冬）」について

（概要＜前回からの変更点＞）

富山県の景気は、「一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している」と判断しました。前回（2024年秋）は、「緩やかに回復しつつある」としていましたが、判断を引き上げています（直近の判断変更は2024年秋）。判断を変更した項目は、以下の2つです。

- ① 個人消費は、「持ち直している」と判断を引き上げました（変更前は「回復に向けた動きがみられている」）。前回（2024年秋）は、北陸の個人消費の判断を新幹線延伸等による観光需要の増加等を背景に引き上げましたが、富山県は個人消費の判断を据え置いていました。その後、富山県でも、観光キャンペーン等の効果により観光施設の入込客数等が前年を上回っていることが確認できましたので、判断を引き上げました。
- ② 住宅投資は、「下げ止まっている」と判断を引き上げました（変更前は「足もと減少している」）。新設住宅着工戸数は4か月連続で前年を上回って推移しており、暦年でみると2024年は3年ぶりに前年を上回りました。

（所感）

前回の公表では、北陸の景気を「緩やかに回復している」と判断する一方で、富山県の景気は「緩やかに回復しつつある」と少しだけ差が付く形となりました。これは、主に観光需要の動向の差を意識したものでした。今回の判断では、富山県においても、観光キャンペーンの効果等が確認できたこともあり、景気の全体判断は、北陸と同じ「一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している」と判断しました。なお、「一部に弱めの動きがみられる」としたのは、

生産が横ばい圏内で推移する中、一部で弱めの動きが見られていることを意識したものです。

景気の先行きをみる上では、2つの観点から、個人消費の動向について注目しています。一つ目は、日用品を中心に物価上昇に伴う節約志向の高まりです。こうした点を指摘する声は引き続き多く聞かれています。今のところ、富山県では実質賃金が前年を上回る状況が続いており、消費者マインドを下支えしているとみています。もっとも、先行きの物価と賃金の動向が、個人消費にどのように影響を与えていくのかは、注視していきたいと思います。二つ目は、節約志向の一方で、外食や旅行の需要は堅調ですので、こうした需要をうまく取り込めるのか、も重要なポイントです。昨年秋の観光キャンペーンに続き、海外メディアで県内観光地が取り上げられたことは、大きな追い風だと思います。富山県の場合、旅行客に占めるインバウンド客の占める比率は、さほど高くありませんが、今回をきっかけに、インバウンドの受入体制が整備されることは、中長期的にも効果が期待できます。また、国内で大きく報道されたことで、国内客の増加に繋がるのが期待できます。一過性のものに留めず、富山の更なる魅力の発信に繋げていくことが大事です。

以 上